

口小だより

第 31 号
口津小
之津長
校

いよいよ卒業

暦の上では春を迎えるというのに、寒い日が続いています。

それでも本校の児童は、元気いっぱい、昼休み、運動場に全速力で駆けだしていく姿を見ると、私まで元気をもらった気分になります。

いよいよ六年生の卒業、在校生の進級の時が近づいてきました。

今後も、児童の安全確保と学習の保障を第一に、学校経営を行っていききたいと考えています。

全国表彰

地域社会と連携しながら、環境美化に取り組む学校として、南島原市環境課から推薦していただき、長崎県から唯一、本校が全国表彰を受賞しました。

二月十六日、本校会議室で、伝達表彰が行われました。表彰式には、校長と児童代表として、六年生の平 隼都くんが出席しました。

【表彰名】環境美化教育優良校

協会会長賞

【受賞理由】

南蛮船来航の地として長い歴史を有し、その風土や環境を地域全体で守っている町、「口之津町」。同校では、町内中学校や国立海上技術学校、住民とともに二十年以上、海岸清掃活動を行っている。コロナ禍でも実施できる活動をしようと昨年度から始めたのが、美しいふるさとの散策（オルレ）と漂着ごみの回収活動。児童は、環境保全の重要性を痛感している。

【代表児童のコメント】

ぼくは、オルレを利用する人たちにとって、少しでもきれいな海岸にしたいです。在校生には、これからも環境美化活動を続けてほしいです。

コロナ対策

新型コロナウイルスの小・中学生の感染率は、第五波までは比較的低い傾向にありました。

ところが、今回の第六波では、十歳前後の感染率が高く、南島原市においても、いつ・どこかの小・中学校で、クラスターが発生してもおかしくない状況にあります。そのため、本校では、一月二十六日付け、二月十四日付けで通知しましたとおり、コロナ対策を次のとおり強化しています。

マスク着用の強化

・ 飲食以外は、原則マスク着用にします。給食中も黙食に努めます。

学習内容の制限

・ 授業中は、体育の時間をはじめ、原則、マスクをして行動が行えるように配慮します。

・ グループ活動や共同作業の機会を極力減らし、身体的距離の確保に努めます。

教室棟の行き来の制限

・ 同じ学級（学年）以外の児童との交流の機会を極力減らします。
・ 職員室や図書室への出入りの機会を極力減らします。

集会活動等の中止

・ 全校児童が一堂に会する活動を中止します。
・ 朝のあいさつ運動を中止します。

その他

・ フツ化物洗口及び歯磨きを控えます。

* * *

このコロナ対策の強化は、「まん延防止等重点措置」中は継続し、状況によって、徐々に緩和していくこととなります。

したがって、卒業式の全体練習は、今のところ、本番十日前からの集中練習、さらに、短時間で効率よく行うように配慮します。（※裏面に続く）

卒業式の出席者も、昨年同様、保護者が各家庭二名まで、来賓はPTA本部役員のみ、上限五十分で行う予定です。

なお、これは、南島原市教育委員会の指示によるものです。

また、教育委員会からは、コロナ感染が拡大した場合の学級閉鎖措置の基準が、次のとおり示されています。(一月二十六日付け)

- ③ 以下のいずれかの状況に該当し、学級内で感染が広がっている可能性が高い場合、学級閉鎖を実施する。
- ① 同一の学級において複数の児童生徒等の感染が判明した場合
- ② 感染が確認された者が一名であっても周囲に未診断の風邪等の症状を有する者が複数いる場合
- ③ 一名の感染者が判明し、複数の濃厚接触者が存在する場合
- ④ その他、設置者(南島原市)で必要と判断した場合
- ⑤ 学級閉鎖の期間としては、五〜七日程を目安に、感染の把握状況、感染の拡大状況、児童生徒等への影響等を踏まえて判断する。

なお、学級閉鎖措置は、校長が校医と相談し、教育委員会の了解を得たうえで決定することになります。

学年末になるほど、学級閉鎖や休校等の措置はとりにくくなります。今後コロナ対策に協力をお願いします。

行事予定

※年度初めのPTA関係のスケジュールは三月三日の評議員会で審議後、お知らせする予定です

- | | |
|--------|-----------------|
| 三月 一日 | 委員会活動新体制 (四・五年) |
| 三日 | PTA評議員会 |
| 七日〜十一日 | 学期末短縮授業 |
| 八日 | 学習発表会 (六年) |
| 十日 | お別れ集会 |
| 十五日 | 中学校卒業式 |
| 十七日 | 卒業式予行練習 |
| 二四日 | 修了式・離任式 |
| 三一日 | 退職者辞令交付式 |
| 四月 一日 | 転入教職員辞令交付式 |
| 六日 | 着任式・始業式 |
| 七日 | 給食開始 (二〜六年) |
| 八日 | 中学校入学式 |
| 八日 | 入学式 |
| 十四日 | 給食開始 (一年) |
| 十五日 | 歓迎遠足 |
| 十九日 | 全国学力調査 (六年) |
| 二十日 | 県学力調査 (五年) |
| 二十日 | 交通安全教室 (一年) |
| 二七日 | 交通安全教室 (四年) |

校長室から

人生百年時代

校長 菅 秀 康

私の好きな作家、五木寛之氏によると、今や人生百年時代、その著書で、二十五年ごとに、四季と色で、次のように分類している。

【青春(二十五歳まで)】
できれば、二十五歳ぐらいまでに自立してほしいものだ。

【朱夏(五十歳まで)】

初老(四十歳)は、今や若者。本校職員は、五十歳以上が約七十%。

【白秋(七十五歳まで)】

還暦(六十歳)以降を余生というのは早すぎる。セカンドライフぐらいの言葉の響きがちょうどよい。

【玄冬(七十五歳から)】

できるだけ自力で生活できるようにしたいものだ。生活リズム、適度な運動、社会貢献活動を心がけよう。

いよいよ、私も定年退職を迎える。まだまだ、「白秋」の半ば、今から美しい紅葉の時期を迎える。そんな心持ちで過ごしたい。

三年間、御愛読ありがとうございます。